

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 2020年10月14日

【四半期会計期間】 第26期第2四半期(自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)

【会社名】 株式会社アクアライン

【英訳名】 Aqualine Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大垣内 剛

【本店の所在の場所】 広島県広島市中区上八丁堀8番8号

【電話番号】 082 - 502 - 6644(代表)

【事務連絡者氏名】 財務・経理部長 平野 真生

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 03 - 6758 - 5588(代表)

【事務連絡者氏名】 財務・経理部長 平野 真生

【縦覧に供する場所】 株式会社アクアライン東京本社  
(東京都千代田区霞が関三丁目2番5号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第25期 第2四半期 連結累計期間	第26期 第2四半期 連結累計期間	第25期
会計期間	自 2019年3月1日 至 2019年8月31日	自 2020年3月1日 至 2020年8月31日	自 2019年3月1日 至 2020年2月29日
売上高 (千円)	2,962,603	2,783,827	6,008,465
経常損失 ( ) (千円)	37,548	224,563	18,982
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失 ( ) (千円)	38,550	150,634	34,949
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	38,550	189,257	34,949
純資産額 (千円)	1,154,300	1,509,463	1,157,901
総資産額 (千円)	1,968,076	3,067,970	1,906,888
1株当たり四半期(当期)純損 失金額 ( ) (円)	18.97	74.38	17.20
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	58.65	32.09	60.72
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	74,803	3,724	127,233
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	111,591	556,851	119,205
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	85,943	668,589	143,155
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	742,131	837,749	729,735

回次	第25期 第2四半期 連結会計期間	第26期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年6月1日 至 2019年8月31日	自 2020年6月1日 至 2020年8月31日
1株当たり四半期純利益金額又 は1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	4.46	0.11

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、株式会社E P A R Kレスキューの株式を取得し子会社化したことに伴い、新たに連結の範囲に含めております。

当社グループ（当社及び当社の関係会社）の報告セグメントは、「水まわり緊急修理サービス事業」、「ミネラルウォーター事業」、「フィットネス事業」でありましたが、第1四半期連結会計期間より、株式会社E P A R Kレスキューが連結子会社になったことに伴い、新たに「広告メディア事業」が加わりました。

なお、株式会社E P A R Kレスキューは、2020年9月1日付で株式会社E P A R Kくらしのレスキューに社名を変更しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクは次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### M & Aに関するリスク

当社グループは、企業買収等により株式を取得しており、のれんを計上しておりますが、今後、事業環境や競合状況の急激な変化等により関係会社の業績が当初の想定を下回り、想定していた超過収益力が低下した場合、当該のれんについて減損損失が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、個人消費や経営活動が大幅に制約を受け景気が悪化しております。このところ持ち直しの動きも見られますが、今後も先行きは予断を許さない状況が続いております。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、少子高齢化という人口構造の変化により、新規住宅着工戸数の減少が予測されており、既存住宅の平均築年数は上昇しております。そのため、住宅の老朽化と共に、水まわりのトラブルを含む住宅の不具合は増える傾向にあります。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言発令期間中におきましては緊急を要しない修理依頼の減少が生じました。

このような環境のもとで、当社グループは、生活救急サービスを検索できるポータルサイト「E P A R K 暮らしのレスキュー」（旧・E P A R K レスキュー）の運営、様々な検索ポータルサイトとの連携を実現した店舗・施設向けホームページサービス「ローカルプレイス」のうち生活救急領域の広告販売を行っている株式会社E P A R K 暮らしのレスキュー（旧・株式会社E P A R K レスキュー）の株式を取得し子会社化いたしました。

当第2四半期連結累計期間は、主力事業であります水まわり緊急修理サービス事業では、現場サービススタッフ全員にマスクを着用させるなど新型コロナウイルス感染症対策に努める一方で、業務提携先との関係強化や、採用・研修・教育に注力してまいりました。ミネラルウォーター事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により販売が大きく落ち込みましたが、徐々に回復へ進んでおります。フィットネス事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、パーソナルトレーニングジムの営業を自粛いたしましたが、現在は営業を再開しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,783,827千円（前年同期比6.0%減）となりました。営業損失は、のれん償却額の計上等により231,518千円（前年同期は36,515千円の営業損失）、経常損失は224,563千円（前年同期は37,548千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は150,634千円（前年同期は38,550千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

#### ・水まわり緊急修理サービス事業

現場サービススタッフ全員にマスクを着用させるなど新型コロナウイルス感染症対策に努めましたが、緊急事態宣言発令期間中におきましては緊急性を要しない修理依頼の減少が生じました。緊急事態宣言解除後の6月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準へと回復し、採用活動に注力しております。また、業務提携先との関係強化や、継続的な研修・教育に注力してまいりました。

以上の結果、当事業の売上高は2,450,753千円（前年同期比2.8%減）、営業損失は127,266千円（前年同期は49,938千円の営業損失）となりました。

・広告メディア事業

生活救急サービスを検索できるポータルサイト「E P A R K ぐらしのレスキュー」（旧・E P A R K レスキュー）の加盟店募集に注力いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は53,540千円、営業損失は109,450千円となりました。

・ミネラルウォーター事業

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、特にホテル、大学等への販売が大きく落ち込みましたが、徐々に回復へ進んでおります。

以上の結果、当事業の売上高は256,879千円（前年同期比37.9%減）、営業利益は10,101千円（前年同期比55.5%減）となりました。

・フィットネス事業

健康志向の高まりを背景に水まわり緊急修理サービス事業で培った「サービス力」を活かしてパーソナルトレーニングジムを2店舗運営しております。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、営業を自粛いたしました。現在は営業を再開しております。

以上の結果、当事業の売上高は22,653千円（前年同期比18.8%減）、営業損失は4,931千円（前年同期は10,873千円の営業損失）となりました。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,161,081千円増加し、3,067,970千円となりました。これは主に、のれんが879,199千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ809,519千円増加し、1,558,506千円となりました。これは主に、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が555,836千円、短期借入金175,000千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ351,562千円増加し、1,509,463千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金が減少したものの、非支配株主持分が524,876千円増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ108,014千円増加し837,749千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は3,724千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失を224,886千円計上したものの、減価償却費を60,492千円計上、のれん償却額を97,688千円計上、未払金の増加67,179千円が生じたことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は556,851千円となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出536,499千円が生じたことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果得た資金は668,589千円となりました。これは主に、長期借入による収入600,000千円が生じたことによるものであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、運転資金と設備投資等に資金を充当しております。当社グループは事業運営上の必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としており、自己資金のほか、必要に応じて金融機関からの借入等により資金調達を行っております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,400,000
計	6,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年10月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,032,600	2,032,600	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式であります。なお、 単元株式数は100株 であります。
計	2,032,600	2,032,600		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年6月1日～ 2020年8月31日		2,032,600		280,309		200,309

## (5) 【大株主の状況】

2020年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
大垣内 剛	広島県広島市中区	1,076,900	53.94
ジャパンベストレスキューシステム株式会社	愛知県名古屋市中区錦一丁目10番20号	154,400	7.73
大垣内 好江	大阪府大阪市西区	125,000	6.26
アクアライン従業員持株会	広島県広島市中区上八丁堀8番8号	83,000	4.16
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーM U F G証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町一丁目9番7号 大手町フィナンシャルシティ サウスタワー)	45,200	2.26
株式会社ポイントラゲ	東京都渋谷区渋谷二丁目10番9号	33,300	1.67
田中 宏和	和歌山県橋本市	21,900	1.10
藪 太一	滋賀県草津市	21,000	1.05
有限会社ヒロ・コーポレーション	神奈川県横浜市都筑区北山田六丁目12番15号	20,000	1.00
株式会社スマートソーシング・ジャパン	東京都渋谷区初台一丁目51番1号	19,000	0.95
計	-	1,599,700	80.13



## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 36,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,995,400	19,954	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は、100株であります。
単元未満株式	普通株式 900		
発行済株式総数	2,032,600		
総株主の議決権		19,954	

## 【自己株式等】

2020年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アクアライン	広島市中区上八丁堀8番8号	36,300		36,300	1.79
計		36,300		36,300	1.79

## 2 【役員の状況】

## (1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役 管理本部長	小林 寿之	2020年5月31日

## (2) 異動後の役員の男女別員数及び女性比率

男性5名 女性2名 (役員のうち女性の比率29%)

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年6月1日から2020年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年3月1日から2020年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	729,735	837,749
売掛金	365,515	432,128
商品及び製品	10,916	14,215
原材料及び貯蔵品	148,626	169,738
その他	174,616	175,564
貸倒引当金	834	905
流動資産合計	1,428,575	1,628,490
固定資産		
有形固定資産	319,907	342,715
無形固定資産		
のれん		879,199
その他	32,901	58,010
無形固定資産合計	32,901	937,210
投資その他の資産		
その他	134,960	169,012
貸倒引当金	9,456	9,459
投資その他の資産合計	125,503	159,553
固定資産合計	478,313	1,439,479
資産合計	1,906,888	3,067,970
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	118,626	134,889
短期借入金		175,000
1年内返済予定の長期借入金	15,000	134,988
未払金	324,020	391,188
工事補償引当金	1,375	1,358
その他	140,875	103,251
流動負債合計	599,897	940,675
固定負債		
長期借入金	11,250	447,098
その他	137,839	170,733
固定負債合計	149,089	617,831
負債合計	748,987	1,558,506
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	280,309	280,309
資本剰余金	200,309	200,309
利益剰余金	677,984	527,349
自己株式	702	23,382
株主資本合計	1,157,901	984,586
非支配株主持分		524,876
純資産合計	1,157,901	1,509,463
負債純資産合計	1,906,888	3,067,970

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
売上高	2,962,603	2,783,827
売上原価	1,690,356	1,583,313
売上総利益	1,272,247	1,200,514
販売費及び一般管理費	1 1,308,762	1 1,432,032
営業損失( )	36,515	231,518
営業外収益		
受取利息	84	89
受取配当金	6	6
受取手数料	180	
保険差益	271	940
助成金収入		10,155
その他	12	583
営業外収益合計	555	11,774
営業外費用		
支払利息	855	2,998
支払補償費	517	1,463
リース解約損	14	
その他	200	357
営業外費用合計	1,587	4,819
経常損失( )	37,548	224,563
特別利益		
固定資産売却益	17	7
特別利益合計	17	7
特別損失		
固定資産除却損		329
特別損失合計		329
税金等調整前四半期純損失( )	37,530	224,886
法人税、住民税及び事業税	1,005	1,073
法人税等調整額	15	36,702
法人税等合計	1,020	35,628
四半期純損失( )	38,550	189,257
非支配株主に帰属する四半期純損失( )		38,623
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	38,550	150,634

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
四半期純損失( )	38,550	189,257
四半期包括利益	38,550	189,257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38,550	150,634
非支配株主に係る四半期包括利益		38,623

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	37,530	224,886
減価償却費	60,546	60,492
のれん償却額		97,688
貸倒引当金の増減額( は減少)	388	73
工事補償引当金の増減額( は減少)	18	17
受取利息及び受取配当金	90	95
支払利息	855	2,998
売上債権の増減額( は増加)	91,427	66,613
たな卸資産の増減額( は増加)	13,216	24,410
仕入債務の増減額( は減少)	48,642	16,262
未払金の増減額( は減少)	85,363	67,179
その他	21,139	64,339
小計	101,084	6,988
利息及び配当金の受取額	90	95
利息の支払額	705	3,468
法人税等の支払額	25,665	6,637
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,803	3,724
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	92,471	6,910
有形固定資産の売却による収入	246	7
無形固定資産の取得による支出	17,740	9,289
短期貸付けによる支出	400	6,444
短期貸付金の回収による収入	268	1,520
長期貸付けによる支出	2,380	900
長期貸付金の回収による収入	989	1,072
差入保証金の差入による支出	355	138
差入保証金の回収による収入	297	711
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出		536,499
その他	46	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	111,591	556,851
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)		175,000
長期借入れによる収入		600,000
長期借入金の返済による支出	25,451	44,164
自己株式の取得による支出		22,680
配当金の支払額	40,618	11
リース債務の返済による支出	19,873	39,554
財務活動によるキャッシュ・フロー	85,943	668,589
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	122,730	108,014
現金及び現金同等物の期首残高	864,861	729,735
現金及び現金同等物の四半期末残高	742,131	837,749

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、株式会社E P A R K レスキューの株式を取得し子会社化したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

なお、株式会社E P A R K レスキューは、2020年9月1日付で株式会社E P A R K うちのレスキューに社名を変更しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルスの感染拡大の影響による会計上の見積り)

当社グループは、新型コロナウイルスの感染拡大による経営成績等への影響が、当連結会計年度末に回復していくものと仮定し、固定資産の減損及び繰延税金資産回収可能性に関する会計上の見積りを行っております。

その結果として、当第2四半期連結会計期間において減損損失は計上せず、繰延税金資産は59,042千円計上しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
広告宣伝費	398,209千円	329,587千円
販売手数料	328,252	384,868
貸倒引当金繰入額	388	73
減価償却費	17,135	15,621

2 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)及び当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

水まわりの緊急修理サービスに対する需要は、お盆、年末年始等の帰省がある8月、12月及び1月に拡大する傾向があります。また、寒波による水道管凍結又は破裂により冬季に需要が高くなることがあります。一方、天候の安定している春や梅雨の時季は需要が低い傾向にあります。

したがって、当社の売上高は、これらの季節的な需要要因のため、下半期の占める割合が高くなっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
現金及び預金	742,131千円	837,749千円
預入期間が3か月を超える定期預金		
現金及び現金同等物	742,131	837,749

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月30日 定時株主総会	普通株式	40,646	20	2019年2月28日	2019年5月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
	水まわり緊急 修理サー ビス事業	広告メデ ィア事業	ミネラル ウォーター 事業	フィットネ ス事業			
売上高							
外部顧客への売上高	2,520,917		413,791	27,894	2,962,603		2,962,603
セグメント間の内部 売上高又は振替高	750		178	281	1,210	1,210	
計	2,521,667		413,970	28,176	2,963,813	1,210	2,962,603
セグメント利益又は損 失( )	49,938		22,350	10,873	38,461	1,945	36,515

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額には、セグメント間取引消去1,945千円が含まれております。  
2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
	水まわり緊急 修理サー ビス事業	広告メデ ィア事業	ミネラル ウォーター 事業	フィットネ ス事業			
売上高							
外部顧客への売上高	2,450,753	53,540	256,879	22,653	2,783,827		2,783,827
セグメント間の内部 売上高又は振替高		8,831	153	130	9,115	9,115	
計	2,450,753	62,371	257,032	22,784	2,792,942	9,115	2,783,827
セグメント利益又は損 失( )	127,266	109,450	10,101	4,931	231,546	27	231,518

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額には、セグメント間取引消去27千円が含まれております。  
2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間より、「広告メディア事業」において、株式会社E P A R K からのレスキュー(旧・株式会社E P A R K レスキュー)の株式を取得し子会社化したことに伴い、連結の範囲に含めておりません。

これに伴い、前連結会計年度に比べて、当第2四半期連結会計期間末の「広告メディア事業」のセグメント資産が、1,084,730千円増加しております。

### 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、株式会社E P A R Kくらしのレスキュー（旧・株式会社E P A R Kレスキュー）の株式を取得し子会社化したことに伴い、報告セグメントに「広告メディア事業」を追加していません。

また、第1四半期連結会計期間において、従来「ヘルスケア事業」としていた報告セグメントの名称を「フィットネス事業」に変更しております。セグメント名称のみの変更であるため、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称で記載しております。

### 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、株式会社E P A R Kくらしのレスキュー（旧・株式会社E P A R Kレスキュー）を連結の範囲に含めたことに伴い、「広告メディア事業」におけるのれんが879,199千円増加しております。

なお、当該のれん金額は、取得価額が未確定であり、また、取得原価の配分が完了していないため、入手可能な合理的情報に基づき、暫定的に算出された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

長期借入金が企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められますが、当第2四半期連結会計期間に係る四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
1株当たり四半期純損失金額( )	18.97円	74.38円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	38,550	150,634
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	38,550	150,634
普通株式の期中平均株式数(株)	2,032,331	2,025,342

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年10月12日

株式会社アクアライン  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 原 晃 生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 下 平 雅 和

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アクアラインの2020年3月1日から2021年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年6月1日から2020年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アクアライン及び連結子会社の2020年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。